



山形大学における IR実践事例

浅野 茂

山形大学 学術研究院 教授
(企画評価、IR担当)

2020年9月25日(金) 10:00~12:00

令和2年度 大学ポートレートセンター ステークホルダー・ボード 報告資料

資料の構成

0. プロフィール
1. 山形大学におけるIR
2. 実践事例 1 : 学内データの活用
3. 実践事例 2 : 公開データの活用
4. まとめ

【参考文献】

0.プロフィール（個人）

- 平成18年3月に神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了、博士（経営学）を取得。同年4月、神戸大学企画評価室採用。大学機関別認証評価、国立大学法人評価等の第三者評価に関連する業務に加え、神戸大学情報データベース（KUID）の管理運用等を担当。
- 平成25年10月、独立行政法人大学評価・学位授与機構研究開発部に着任し、国立大学法人評価の枠組みの検討や質保証に係る調査研究等に従事。
- 平成27年4月から現職。主として企画評価、IR業務に従事。その他、大学評価及び大学における意思決定支援機能としてのIR（Institutional Research）に関する研究を推進するほか、大学評価コンソーシアム副代表幹事（企画担当）、文部科学省中央教育審議会教学マネジメント特別委員会委員、科学技術・学術政策研究所客員研究官、名古屋大学IR戦略室特任教授、鹿児島大学IRセンター特任教授等の活動を通じて、日本の大学における大学評価及びIR業務の高度化、データベースの構築等に関する話題提供や提言を行っている。

詳細は、山形大学研究者情報に公開。

URL: http://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/html/200000148_ja.html

0.プロフィール（大学）

【構成】

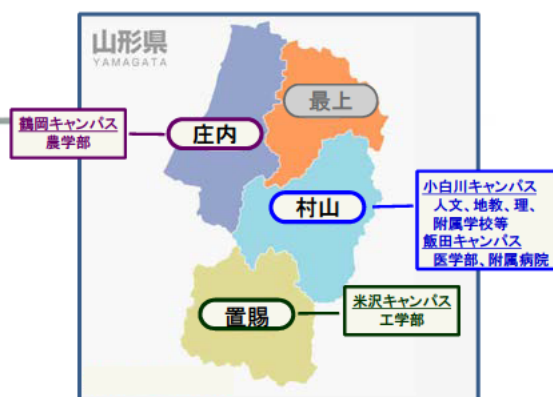
- 6学部（人文・地教・理・医・工・農）
- 7研究科、医学部附属病院、附属学校 等

【員数等】（2020年5月1日現在）

- 学生数：約9,000人、生徒児童数：約1,300人

学部	入学定員	在籍者数
人文社会科学部	290	1,320
地域教育文化学部	175	734
理学部	210	901
医学部	165	995
工学部	650	2,763
農学部	165	676
計	1,670	7,389

大学院	入学定員	在籍者数
修士・博士前期課程	428	947
博士・博士後期課程	69	256
専門職学位課程	20	42
計	517	1,245



（地域別入学者数） 2020年4月入学者

東北：64%、関東：17%、北陸・中部：13%

※東北の内訳：山形県：24%、宮城県：23%、福島県：7%

（地域別就職者） 2020年3月卒業生

東北：54%、関東：31%、北陸・中部：6%

※東北の内訳：山形県：26%、宮城県：20%、福島県：4%

（主な卒業生）

吉本隆明（思想家）、藤沢周平（小説家）

上田準二（エー・ファミリーホールディングス（株）代表取締役社長）

西海和久（株式会社ブリヂストンCOO）他

- 教職員：約3,000人

（先進的な研究分野）

有機材料、ナス力地上絵、総合スピ科学、分子疫学他

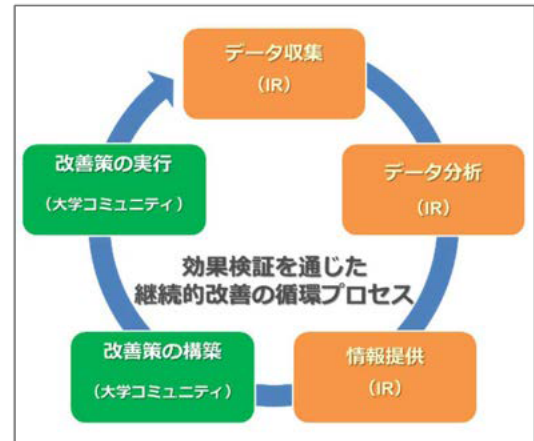
⇒大学関係者：約15,000人（山形県人口の約1%、山形市人口の約5%）

1. 山形大学におけるIR（1）



山形大学次世代形成・評価開発機構IR部門（Office of Institutional Research & Effectiveness, OIRE）は、データの収集および分析を行い、大学コミュニティへの情報提供を通じて、山形大学の継続的改善と、データに基づく意思決定を支援します。

- IR (Institutional Research) とは**
 客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供等を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること
- IE (Institutional Effectiveness) とは**
 IR機能を活用して効果検証を行い、大学として継続的改善の循環プロセスを実行すること



URL : <https://ir.yamagata-u.ac.jp/what-is-ir/>

1. 山形大学におけるIR（2）

IR	IE
学外公開 ・ 学校基本調査 ・ 大学基本情報 学内限定 ・ 財務指標 ・ Fact Book ・ 成績分布 ・ 基盤力テスト ・ 入学者レポート ・ 入試レポート ・ TOEICスコア ・ アンケート など	3 ポリシー ・ 学部、大学院とも教育プログラム単位で策定 プログラム・レビュー ・ カリキュラム・チェックリスト ・ カリキュラム・マッピング ・ 適正なシラバス作成 ・ IRデータを組合せた認定 試行中 ・ Cost Recovery ・ 教育活動の基準点 ・ 教室配当、時間割

1. 山形大学におけるIR（3）



-  IR担当者向け実践プログラム
-  APプロジェクトについて
-  OIREについて
-  IRとは？IEと
-  What's New?
-  Events
-  APシンポジウム
-  APキックオフ (2016.11.11)
-  APシンポジウム2017 (2017.9.21)

スタッフ

機構長
矢作 清
理事（学生支援、EM・IR、広報担当）・副学長

IR部門

(以下、五十音順)

浅野 茂
学術研究院 教授（企画評価・IR担当）

鈴木 達哉 
エンrollment・マネジメント部学生支援課 専門員

藤原 宏司 
学術研究院 教授（IR担当）

水戸 広美
エンrollment・マネジメント部EM・広報課 スタッフ

FD部門
部門長

FTE: 2.4

藤原: 0.9

鈴木: 0.6

水戸: 0.5

浅野: 0.4

2. 実践事例1：学内データの活用（1）

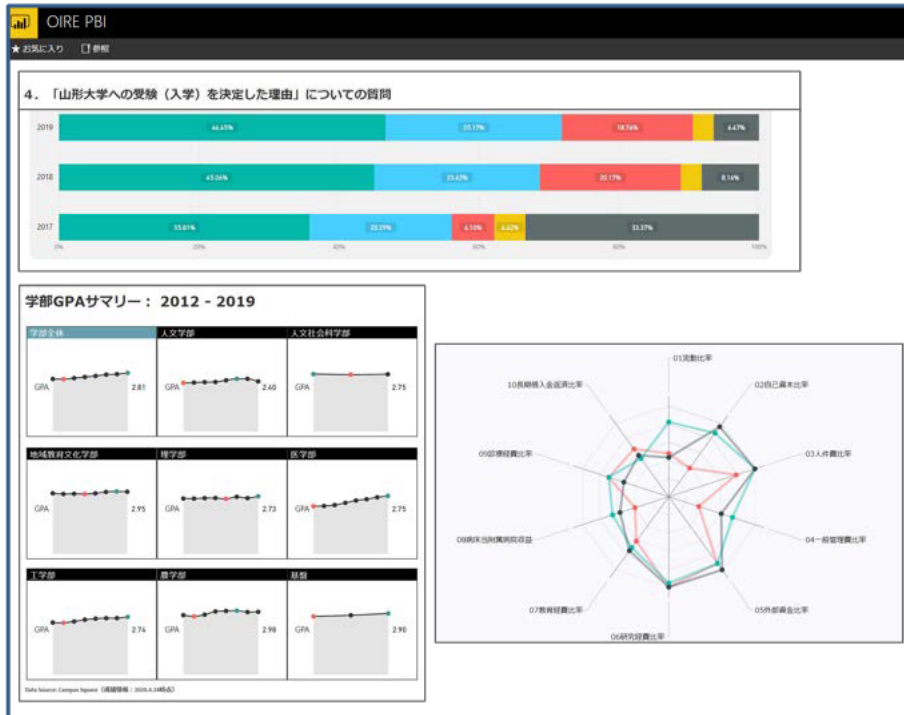
学内の各種データ統合し、分析結果を可視化



基盤力テストの結果と学生の履修履歴や出席情報等のIRデータを用いて、教育プログラムごとに学生の学びの到達度を分析するモデルを開発し、教育の質保証を強化。

2. 実践事例1：学内データの活用（2）

学内の各種データ統合し、分析結果を可視化



入学動機、成績評価の分布状況などの教育データに加え、財務指標等の推移を可視化し、カリキュラム改善や持続的な経営に資するための意思決定に活用

3. 実践事例2：公開データの活用（1）



3. 実践事例2：公開データの活用（2）



<http://portal.niad.ac.jp/prtr/table.html/>

3. 実践事例2：公開データの活用（3）

The screenshot shows an Excel spreadsheet with a large data table. The table has columns for '出身高校の所在地県別' (Origin of high school by prefecture) and '入学者数' (Number of students). A red box highlights a portion of the data, and a blue arrow labeled '変換' (Conversion) points to a smaller table on the right. The smaller table is a 'ロング型の例' (Example of long type) with columns for '番号' (Number), '性別' (Gender), '科目' (Subject), and '点数' (Score). A red box at the bottom left contains the text '複数シートに分かれているため、加工・統合が必要' (Because it is divided into multiple sheets, processing and integration are required).

番号	性別	英語	数学
001	女性	95	80
002	男性	78	86
...

番号	性別	科目	点数
001	女性	英語	95
001	女性	数学	80
002	男性	英語	78
002	男性	数学	86
...

複数シートに分かれているため、加工・統合が必要

3. 実践事例2：公開データの活用（4）

OFFICE OF INSTITUTIONAL RESEARCH & EFFECTIVENESS

保護中: OIRE Power BI Reports

このコンテンツはパスワードで保護されています。閲覧するには以下にパスワードを入力してください。

パスワード 確定

IR担当者向け実践プログラム

- APプロジェクトについて
- OIREについて
 - IRとは？何と何？
 - What's New?
 - Events
- APシンポジウム
 - APキックオフシンポジウム (2016.11.11)
 - APシンポジウム2017 (2017.9.21)
 - APシンポジウム2018 (2018.10.1)
 - APシンポジウム2019 (2019.12.9)
- IR勉強会
 - IR勉強会 (2017.11.20)
 - データ更新 (2018.2.26)
 - Power BIを活用したリアルタイムアップデート (2019.1.25)
- IR Activities
 - Conference Presentations
 - Invited Presentations
 - Visitors to Our Office
 - Reports
 - APキックオフシンポジウムと第10回EMIR勉強会 (2016.11.11)
 - APシンポジウム2017 (2017.9.21)
 - APシンポジウム2018 (2018.10.1)
 - OIRE Power BI Reports

保護中: OIRE Power BI Reports

OIRE Power BI Reports

[Power BI] 大学入学者関連 (使用データ: 学校基本調査 2004-2018)

Power BIに関する参考資料:

- ・ピボットテーブルを使用したデータの動的可視化について (16.6.15)
- ・DAX関数を使用したデータ分析の可視化について (17.3.3)
- ・山形大学OIREにおけるPower BIを用いた公開データの可視化について (17.9.22)
- ・スキャップシナリオで学内Power BIを活用した公開データの可視化 (17.11.20)
- ・タビエディターを使用した公開データのデータ整形(2018.2.26)

大学の所在地 山形県 山形大学入学者数 (学校基本調査 2004 - 2018)

レポートの内容: 大学 (入学者) の所在地 - どこから来たのか

Microsoft Power BI < 6 of 6 >

※ レポートへのURLがシステムの制約上変更される場合がありますので、このページからアクセスしてください。
 ※ スマートフォン、タブレットでご覧になる場合は、画面を横にしてください。

URL: <https://ir.yamagata-u.ac.jp/reports/bi-reports/>

3. 実践事例2：公開データの活用（5）

大学基本情報：個別大学 vs. 学部分野 vs. 出身高校の所在地

注：学校基本調査とデータ数が異なる場合があります。

大学の所在地

06山形県

国立/公立

すべて

年度

2019

女子学生比率

35%

大学名

山形大学

分野名

すべて

性別

すべて

県内高校出身者比率

23%

出身高校の所在地別入学者数

出身高校の所在地	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
06山形県	475	436	444	409	409	410	428	404
04宮城県	387	413	383	382	362	398	374	374
07福島県	144	145	128	119	144	136	156	127
09栃木県	89	97	92	89	88	100	93	91
15新潟県	105	91	95	103	80	73	86	96
03岩手県	83	92	95	86	80	68	75	69
02青森県	59	60	49	64	55	54	65	59
05秋田県	57	58	59	58	53	63	51	50
22静岡県	31	55	47	68	58	53	59	52
08茨城県	40	43	59	45	55	50	52	52
01北海道	43	40	49	50	55	42	56	55
23東京都	34	24	31	43	53	31	36	40
13東京都	34	20	24	36	48	46	34	45
10群馬県	26	40	31	35	27	30	25	39
11埼玉県	25	20	27	31	28	21	39	27
合計	1,760	1,752	1,749	1,754	1,769	1,731	1,755	1,740

学部分野別男女比率

学部分野	男性 (%)	女性 (%)
E. 理学・情報科学系	76%	24%
G. 工学・理工学系	85%	15%
K. 農・水・生命系	55%	45%
M. 医・歯・薬系	45%	55%
XYZ. 総合系 (含: ...)	44%	56%

学部分野別県内高校出身者比率

学部分野	比率 (%)
E. 理学・情報科学系	18%
G. 工学・理工学系	19%
K. 農・水・生命系	19%
M. 医・歯・薬系	27%
XYZ. 総合系 (含: ...)	32%

Note: 分野区分は、大学基本情報に従った。
 山形大学の場合は以下の通り
 ・人文社会科学部 = A. 人文・語学系 or XYZ. 総合系 (2017から)
 ・地域教育文化学部 = XYZ. 総合系
 ・理学部 = E. 理学・情報科学系
 ・医学部 = M. 医・歯・薬系
 ・工学部 = G. 工学・理工学系
 ・農学部 = K. 農・水・生命系

Prepared by K. Fujiwara (OIRE, Yamagata University)

4. まとめ

- 日本の大学においては、総じて学内にデータが散在しており、収集が困難、収集できても活用までに乗り越えるべき障壁が多数存在。
- 学内データの収集・活用が難しいようであれば、公開データを用いることで、自大学の現状把握とともに他大学とのベンチマーキングなども実施できるため、ここから着手し、データに基づく意思決定を推進する文化を醸成していくことが肝要。
- 公開データの可視化に当たっては、活用を促進するユーザコミュニティの形成、可視化の手法や効果的な図表等を作成するための研修の機会が不可欠。

参考文献・資料

- Fincher, C. (1978). Institutional Research as organizational intelligence. *Research in Higher Education*, 8(2), 189-192.
- Howard, R.D., McLaughlin, G.W., Knight, W.E., & Associates (2012). *The Handbook of Institutional Research*, San Francisco, CA: Jossey-Bass.
- Saupe, J. L. (1981). *The Functions of Institutional Research*. Association for Institutional Research.
- Terenzini, P. (1993). On the Nature of Institutional Research and Knowledge and Skills It Require. *Research in Higher Education*, 34(1), 1-10.
- 浅野茂 (2016), 「データベースの構築とIRの課題」, 高等教育研究第19集, pp.49-66.
- 小林雅之・山田礼子(編) (2016), 『大学のIR 意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版会.
- 橋本智也; 白石哲也 (2019), 「大学におけるIRの実態に関するアンケートの調査報告 - 自由記述に見られた困難・活動内容 -」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第10号, pp.16-10.
- 藤原宏司 (2015), 「政策立案・計画策定における米国 IR 室の役割」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第2号, pp.17-25.
- 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室 (2020), 「平成29年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(URL最終閲覧日: 2020年9月11日).
https://www.mext.go.jp/content/20200428-mxt_daigakuc03-000006853_1.pdf